

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っている事、負担に感じている事等を具体的に書いてください。

- ・「行こう行こう」行きたいところをたずねていくが、そこへ行ってもまた数分もたたないうちにまた「行こう行こう」「馬鹿たれ」と大きな声を出す。その声で周りの方たちとトラブルになりそうになる。忙しい時間帯に対応が難しく職員がストレスを感じている。

【質問】

いつ、どのような状況（人や場所）で大きな声を出されますか？ 何か違いに気付くことはありますか？

【回答】

ラジオ体操の後、食事の後に談話室、ロビーで過ごしてもらっている。他の利用者に声かけを行い排泄の誘導や言葉かけを行っている際によく大声を出される。他の人が職員と一緒にどこかへ行こうとしていることに対して自分がどうしたらよいか不安になっているのかもしれない。また、周りの人の行動を良く観られている。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・自分の行きたい場所、過ごしたい場所で和やかに過ごしてほしい。
- ・ベッド以外の場所、ロビーで穏やかに過ごせるようになる。他の利用者と会話ができる。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)

- ・生活歴の中から趣味、役割などを見つけて今出来ることを探す。施設の中で本人が好きな場所を探す。
- ・ご本人がどんなときに落ち着かれないのかその原因を見つける。

【質問】

チェック表の作成、記録などはされましたか？（食事、水分、排泄の記録。いつ、どこで、だれの時になど不穏時の状況について）

【回答】

24時間の生活変化をチェックした。そこから居室で過ごす時間や夜間、食事の時間は大声で人を呼んだりすることはなかった。食事は3食ともほぼ全量摂取が出来ている。排便も毎日確認している。水分についてもお茶の時間以外にもコーヒーやお茶などの水分が充分取れている。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・「行こう、行こう」「馬鹿たれ」: どこへ行きましょうかと問うと、「行きましょう、行きましょう」と車椅子を動かそうとされる。ロビーやテレビの前に誘導している。ここで良いですかと問うと「はい」と言われるが数分経つと「馬鹿たれ」と大声になる。馬鹿たれというとみんなびっくりしますよと声をかけると「すみません」と言われるが、また同じ行動になる。

【質問】

本人の言葉から、本人のストレスも感じ取れますが、もしあるならば主な原因は何だと思われますか？

【回答】

ロビーやテレビの前に誘導されているがそこが本人の行きたい場所ではないこと、ゆっくり落ち着いて過ごせる場所ではない。

D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましょう。

- ・車椅子で自由にしてもらっているととらえていたことは、自由にというよりご本人の行動の意味を考えずただ放っている。そのため不安が募ることになっている。

【質問】

なぜ、ただ過ごしてもらっただけになっているのですか？職員の不足、忙しさなのか、本人の要因なのか？

【回答】

以前、夕食後、自分で車椅子を動かし男性利用者の横に行き、その利用者から車椅子を足でけられ横転しそうになったことがあるため、職員は安全確保のため自分たちの見守りがしやすい場所に誘導している。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って(悩んで)いること、求めていることは、どんな事だと思いますか？

- ・落ち着いて過ごせる場所、なじみの人と過ごせる場所を見つけたい。
- ・傍に付き添っていてほしい自分の気持ちが落ちつかないことをわかってほしい。

F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつかでも書き出してみましょう。

- ・居室以外、ロビー等に、ご本人がなじめる環境を作る。(家族の写真や昔使用していたそろばんなどの写真を掲示した場所に居場所を作る。寮母室が見えるところに) 時計の見えるところに、ご本人の名前とご本人の食事の時間や入浴の時間を大きく掲示するなじめる場所で話し相手や出来る仕事、役割をみつけて過ごせるようにする。(アセスメントする) 車椅子で移動されているときには必ず声をかける。行動を見守る。一緒によりそって歩く。車椅子から見えやすいところに場所表示をする。

【全般的な質問】

ご本人のBPSDの対応について、当初の思いと思考展開をしていった現状と比べて、何か違いやメリットはありましたか？

【回答】

シートを用いた思考展開を行ったことで、ご本人のケアのあり方や生活の視点について、もう一度振り返ることが出来ました。また振り返りの中で、課題の認識や目標を職員間で共有することができたことは、今後に繋がると感じています。

(助言者の考察)

ご本人の大きな声や落ち着きの無さは他の利用者とのトラブルを招くことがあり、事故や怪我に繋がらないように配慮をする様子がよく分かりました。

その中で事例提供者はご本人のBPSDの背景について、周りを気にされる様子や職員が他の利用者に関わっている時などの反応を見ながら、落ち着ける環境が必要なことや寂しさ、不安というご本人の心境を察知しています。リーダー的立場の事例提供者が、身体的、精神的な影響の有無について冷静に分析し、事故予防の観点や忙しい時間帯での関わりという難しさの中でも、ご本人に対して職員間での共通理解や共通認識を深めることが大切であると感じています。

その点について、シートを用いたディスカッションを行うことにより、振り返りができ、課題の共通認識や目標の共有をより深めることができたとの意見が出されました。